

久留米大学を受診した患者さんへ

「障害認識ができたことで QOL が向上した一症例」の研究に使用する試料（情報）について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料を使用します。

- 1) 期間：平成 27 年 2 月 1 日～平成 27 年 4 月 30 日
- 2) 受診科：医療センター リハビリテーション科
- 3) 対象疾患名：変形性股関節症
- 4) 使用する試料（情報）：診療情報

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：医療センター リハビリテーションセンター
研究代表者：作業療法士 吉野 千春
研究分担者：リハビリテーション部 作業療法士 藤島 ありさ
：リハビリテーション部 作業療法士 溝上 大紀
：リハビリテーション部 作業療法士 長 綾子
：リハビリテーション部 作業療法士 岩佐 親宏
：リハビリテーション科 助教 田中 順子
：リハビリテーション科 講師 名護 健
：整形外科 教授 志波 直人

2) 研究の意義と目的

作業療法は、「身体または精神に障害のある者、又はそれが予測される者に対してその主体的な生活の獲得を図るため、諸機能の回復・維持開発を促す作業活動を用いて行う治療、訓練、指導および援助を行うこと（(社)日本作業療法士協会・定義）」です。今回、障害認識がない患者に対して、先行研究にある障害認識の階層モデルに沿った関わり方をしながらリハビリを実施し、結果として障害認識ができ QOL の向上がはかれた症例報告を行います。学んだことを今後活かしていくことを目的とします。

3) 研究の方法：

障害認識がない患者に対して、先行研究にある障害認識の階層モデルに沿った関わり方を

しながらリハビリを実施し、先行研究同様の段階を踏んでいくのか症例の言動から主観的に判断し評価をします。また、障害認識ができることでQOLに変化がみられたのかを評価をします。

4) 研究期間：平成 27 年 12 月倫理委員会承認後～平成 28 年 12 月迄

5) 上記の試料の使用を選定した理由：

障害認識がない患者に対して、先行研究にある障害認識の階層モデルに沿った関わり方をしながらリハビリを実施し、学んだことを今後活かしていくことを目的とします。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：

今回の研究で得られた情報は厳密に管理され、プライバシーに関する個人情報は保護されます。取得した個人情報を、個人が特定されるような形で公表することはありません。

7) 研究成果の発表の方法：

本研究での研究成果は、日本作業療法士協会の研修会で発表を行う予定です。

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

久留米大学医療センター リハビリテーション部 作業療法士 吉野千春
〒839-0863 福岡県久留米市国分町 155 番 1 号
TEL 0942-22-6721 FAX 0942-22-6538 (直通)

研究番号 15180